

はじめてとらきち君からの手紙を読む方へ、はじめ君は店長の初孫です。多少の可愛いがりすぎは、お許し下さい。



はじめくん、今年初めての海です！海開き前の逗子の海で初泳ぎ！？はしゃぎすぎて、家に帰ったら大の字で爆睡です。

保育園で書いた七夕の短冊には「みんなでうみにいきたい」と書かれてありました。ぜひ、ビール片手に実現したいと思います。

一昨年経験した、炎天下、地獄のデイズニーシーよりは絶対いいと思います(^_^)v

なぜ逗子かという、義弟が駒沢で焼き肉屋を営んでいましたが、念願の逗子に店を移転したんです。立地柄、駒沢の店も有名人が来たりと、中々繁盛していたのですが、60歳を間近にしても、現役のサアファーなので、海の近くで仕事をしたかったんですね！

鎌倉に近いことですし、きつと今度行ったときには、店内には有名人の色紙がぎっしりかな？うらやましい…(^.^) 義宣くん！応援してるよ！頑張れえ！

オノドラも今年の11月23日には、創業30年を迎えます。来た頃と比べると、店の周りもずいぶん様変わりしました。しかし、毎日芸能人のような美しいお客様はいらっしやいますが、テレビに出てくる芸能人は、かつてお目にかかったことがありません。世田谷の三宿で営業している先輩のお店

は、EXILEが常連客です。そこで購入している漢方薬を、テレビで飲むところを放映したんです。もう、偉い騒ぎだったようです！

連ドラの「まれ」のように、オノドラは「地道にコツコツと、お客さまの喜び笑顔が宝です」(^_^)

時々、こんな電話がかかってくる。「○○という経済誌の出版社です。(知らない) 商工リサーチで調べていたら、御社がとても元気な中小企業とすることがわかりました。つきましては、取材させていただけないでしょうか？その際には、芸能人の▲▲(聞いたことがあるけど、誰だっけ?) インタビュアーとなって取材します。▲▲さんは、かつて□□という映画で主役もされた方ですから、すごい宣伝になると思いますよ」

「お金かかるんでしょ?」「え～、名のある芸能人の▲▲さんがインタビュアーとなりますので、取材費、交通費込みで20万円ほどかかります。(ちよつとまでよ、取材を申し込んできたのはそっちだろ、聞いたことのない経済誌、顔も思い出せない、忘れられた芸能人、そして、20万円。あやしい…)」



丁寧にお断りすると、しつこく「ほんとはいいんですか?こんなチャンスは二度とありませんよ!」
今度はちよつとムツとして断ると、いきなりガツチャンと電話が切られた。いや～な気持ちになりました。あとで調べたら、詐欺まがいの「取材商法」と言うらしいです。でもこの芸能人が、▲▲じゃなく、南沙織や山口百恵だったらどうしたでしょう(^.^)
無理か…(-_-)ボクのシンシア…

Facebook 魂が震える話より

【お父さんの白い運動靴】

私の父は、松葉杖をついて一生を過ごした人でした。そんな父が歩行練習を始めたのは、長女の私が結婚の話を持ち出した頃でした。踏みしめる一歩一歩がどれだけ辛そうだったか…
そんな父の姿を見るたびに、私は心が痛かったです。

でも、婚約者としての今の夫が父に挨拶に訪れた日、私は自分の中にもう一人の「自分」がいることに気がきました。彼の目に、松葉杖をつく父の姿が映っていると思うと、嫌で嫌でたまらない「自分」がいることに気がついたのです。父の顔には、深くしわがより、苦しい汗がにじみ出ました。「無理しないで」といくら言っても父は同じ言葉を口にするだけでした。

「結婚式で、おまえの手を取って式場に入らなければならないじゃないか」その言葉を聞いた時に、私は誰か他の人に代わりに、その役をやってくれることを内心思っていました。義足を着けて不自然な歩みを繰り返す父の姿を、嫁ぎ先の家族に見せたくなかったのです。けれど父は、どこで手に入れたか、白い運動靴まで買ってきて、一生懸命歩行練習を続けたのです。

結婚式の日が近づくとつれ、私は父の気持ちを理解できなくても、不安な気持ちの方がどんどん大きくなっていくのを止められませんでした。「式場で父が転んでしまったらどうしよう。その姿を見た招待客はなんて言うだろう…」ため息ばかりが出ました。

あつという間に月日は過ぎ去り、ついに結婚式の当日を迎えました。みんなから祝福される最高に倅せな日。控室に入り、父の姿を見た私は、思わず驚いてしまいました。フォーマルスーツ姿の父の足下に、歩行練習の時にいつも履いていたあの白い運動靴が見えたのです。「いったい誰が父に運動靴を履かせたの?」私はそのことが気になって仕方ありませんでした。式が終わるまでずっと、頭の中から白い運動靴が消えませんでした。

それから数年経ちました。父が危篤との連絡を受け、急いで病院に駆けつけました。家族が見守る中で、父が私の手を握りながら言いました。「お前は自分の夫を大事にしなさい。お父さんはね、お前の結婚式で自分の手を取って式場に入る自信はなかった。でも、お前の夫が毎日訪ねてきてくれては励ましてくれて…転ぶと危ないからって、運動靴まで買ってくれたんだ。

私は胸がいつぱいになって、何も言えませんでした。すっかりすり切れた白い運動靴。父は、その靴をもう一度履くこともなく、静かに息を引き取りました。

「親の心、子知らず」順繰りですからネ (*^_^*)

EXILE
JAPAN

